

補修タイル受注に力

マンション、歴史的建造物の需要開拓



復元屋が販売する「日本の名壁シリーズ 東京駅の壁」

タイル商社の復元屋

タイル商社の復元屋(本社常滑市金山北大根山8の9、赤井祐仁社長、電話0569・84・2002)は、大規模建築物の修繕工事における補修タイル受注に力を入れている。東京駅再建事業に参画し



赤井祐仁社長

「東京駅の壁」土産品に採用 知名度向上を図る

たのを機に、独自の補修システムを確立した。マンション、歴史的建造物などを対象に新規開拓を進め、売上高で3〜5年後に現状比5割増を目指す。同社が東京駅舎復元で製造したタイルは9月から土産品にも採用されており、知名度向上に生かしたいと考えた。(半田・横井清)

独自の補修システムは、建物診断調査に基づき、グループでタイル製造のアカ

2012年に「東京駅丸の内駅舎保存・復元事業」

イタイル(本社常滑市金山北大根山1の9、赤井祐仁社長、電話0569・42・3006)のノウハウや技術力により、同じ素材と色あいで補修タイルを製造する仕組み。

入した。歴史的建造物の受注は、年2〜3件にとどまっていたが、補修事業は「マンションの美観が保てる」と好調に推移し、2022年6月期の売上高は約3億円を計上している。また、昨年3月にブランド戦略の一環として、東京駅舎復元事業で製造した「化粧レンガタイル」を使ったオリジナルグッズを開発し、インターネット経由で発売した。今年9月からは東京駅丸

の内駅舎の中に位置する東京ステーションホテルに、土産品「日本の名壁シリーズ 東京駅の壁」(税込み1980円)として採用された。さらに、今月開催中の「東京駅丸の内駅舎保存復元完成10周年記念イベント」でも販売を予定している。赤井社長は「東京駅事業のおかげで信用力を得て、新規分野の受注を伸ばしている。LIXILとの取引で培った技術力を生かし、今後も拡大させたい」と話している。